

令和2年度 学校運営連絡協議会実施報告書

1 組織

(1) 協議会名称

令和2年度 都立永山高等学校 学校運営連絡協議会

(2) 事務局の構成

総務部 菅原幹夫教諭、経営企画室長、副校長 計3名

(3) 内部委員の構成

校長 萩谷磨、副校長 原田柊太、経営企画室長 高澤裕治、
主幹教諭(教務)寺田淳一郎、主幹教諭(進路)野村知世、主任教諭(生徒)吉田史弘、主
任教諭(1学年)堀内仁、教諭(総務)菅原幹夫 計8名

(4) 外部委員の構成

恵泉女学園大学(教授)上村英明、多摩市教育委員会(統括指導主事)山本勝敏、
多摩市立青陵中学校長 相楽敏栄、永山5丁目タウンハウス理事長 吉澤均、
本校元校長(吹奏楽部後援会長)田中昭光、PTA 会長 森久保麻紀、
前 PTA 会長 安間美恵 計7名

2 令和2年度 学校運営連絡協議会の概要

(1) 協議会

第1回 日時：令和2年7月21日(火)午後4時から午後5時

出席者：外部委員7名(全員:上村英明、相楽敏栄、吉澤均、山本勝敏、田中昭光、
森久保麻紀、安間美恵)

内部委員8名(全員)

協議内容：1. 校長挨拶で「学校経営計画に基づき」今年度の取組と目標につい
て説明を行った。

2. 分掌・学年の活動報告 1学期の教育活動の報告を行った。

3. 外部委員それぞれから、意見や質問等を頂いた。

(1) 新校舎が完成したら具体的にどこがどうよくなるのか。

(2) 生徒の将来のために Zoom は使えるようにするべき。

(3) オンライン授業で学習意欲・集中力が上がった。

(4) 授業用と進路用の Zoom は環境を分けるべきである。

(5) 都立高校はオンラインの取組に遅れがあり、私立学校との学力
差が生じないか心配である。

(6) ICT 機器を活用した学習指導推進の具体策はあるか？

(7) 青陵中では youtube を活用した通信指導を実施した。

第2回 日時：令和2年12月4日(金)午後4時から午後5時

出席者：外部委員6名(山本委員のみ欠席)

内部委員8名(全員)

- 協議内容：1. 校長挨拶で校舎改築工事の進捗やコロナ禍の影響について説明
2. 分掌・学年の活動報告 2学期の教育活動の報告を行った。
3. 校長、副校長より学校評価アンケートを、全面的に変更すること。変更点等について説明を行った。内容について各協議委員から賛同頂いた。
4. 外部委員それぞれから、意見や質問等を頂いた。
(1) 恵泉女学園大学でコロナ下で実施しているオンライン面接や留学について、パソコンの環境に個人差があるが、評判は概ね良好である。
(2) 入学後に身だしなみの乱れが始まる時期について
(3) 制服に対する批判や不満の有無について
(4) 地域では12年前と比べ生徒に対する苦情は減少している。
(5) 学校評価の項目に総合評価を加えた方が良いのではないか。
(6) 学校評価の項目立てが明確になっていて良い。報告・連絡・相談を密に行うことにより生活指導の共通認識が持てる。
(7) 保護者の懇談会への参加者が少ないので、学校評価に自由意見欄があるのは良い。

(第3回 日時：令和3年3月2日(火)午後4時)

第3回のみ緊急事態宣言期間中となり書面開催とした。

(2) 評価委員会

第1回 日時：令和2年7月21日(火)午後3時30分から午後4時

前年度の学校評価の結果を共有し今年度の課題について検討

第2回 日時：令和2年12月4日(金)午後3時30分から午後4時

実施するアンケート原案及び従来との相違点等について確認

萩谷校長の改訂の趣旨は、アンケートに回答することで、ただ回答するのではなく、生徒が自らを考えさせられるようにすること。経年変化を見てきた部分は一時的に損なわれるが、本質的には、生徒に考えさせ生徒を価値づけられるようにすることを目指している。

第3回(開催せず)書面で事務局がまとめた評価結果を送付し、委員より書面で御意見を提出いただいた。

3 学校運営連絡協議会による学校評価(学校評価報告)

(1) 評価の観点

「学校への理解」「学校の意欲」「学校の実践」の観点で実施する。

(2) アンケートの実施時期、対象、規模

- ・ 11月 全校生徒 対象：863人 回収：825人 回収率：95.6%
(前年度92.1%)
- ・ 11月 保護者 対象：863戸 回収：402戸 回収率：46.6%
(前年度41.9%)

※兄弟等で在籍する生徒についても、便宜上家庭数とせず在籍人数で計算した。

- ・ 12月 教職員 対象：52人 回収：52人 回収率：100%
(前年度100%)
- ・ 1月 地域住民 対象：115軒 回収：17軒 回収率：14.8%
対象地域：タウンハウス永山5-30団地 (前年度41.7%)

(3) 主な評価項目：学校運営、学習指導、生活指導、進路指導、特別活動・部活動、健康・安全（ライフ・ワーク・バランスの推進）、施設・設備、保護者との連携

(4) 評価結果の概要【学校及び校長への意見・提言の内容】

以下は、第三回のアンケートでお寄せいただいた内容の抜粋

- ①アンケートの数字以外の自由意見に学校改善への貴重な意見が多くある。意見に対して正対し学校の向かうべき方向を生徒、保護者、教職員が共有して行くことが大切。
- ②自由意見に先生方の言動に対する不満等が多くみられた。コロナ禍もあり人と人とのつながり、関りが持ちにくい状況で、どの生徒もさまざまな制約のある学校生活の中でストレスがあるとの認識の下、生徒の心に寄り添った肯定的な関わりを今後も期待。
- ③保護者アンケートに「わからない」との回答が多かった。今後もホームページ等を通じた情報発信の推進に期待。

地域アンケートから、市民の皆さんが学校の変容をつぶさに捉え、良い方向へと変容していると感じてくださっている。こうした地域の温かいまなざしや意見を生徒に届けることで自己肯定感が高まることもあると考える。

- ④コロナ禍の中で、休校期間があり教育活動の実施に多少の影響があったが、学習活動や特別活動など先生方の熱心な取組が行われたことを感謝したい。

⑤アンケートから読み取れる課題点

- ・(生徒) 学習意欲を持って授業に取組めない生徒が多数いる
- ・(生徒) 家庭学習や読書時間が少ないこと
- ・(生徒・保護者) 進学を希望する生徒のための授業を充実させてほしい
- ・(保護者) 生徒指導の場面では、生徒の思いや考えを受けとめ指導してほしい
- ・(教員) 未来社会で活躍できる力を育成するために求められる資質・指導力の向上の

ため、校内研修や自己研鑽に努めて行く

(5) 評価結果の分析・考察【学校及び校長への意見・提言】

・学校運営について、

生徒) 設問1では「本校がどのような生徒を育てようとしているか」について、わからないという回答(44%)が最多。校長が、さまざまに改革を進めていることについて、生徒への発信強化は課題。

設問3で、「本校は自分を高めてくれる」に対する肯定評価は35%、否定的評価が48%、不明が15%であった。生徒が学校の姿勢を前向きに感じ、生徒自身により肯定的に自己を高めて行けるような学校環境・風土の醸成は課題。

保護者) 設問2で「学校の情報発信」について肯定的評価が75%であるが、自由意見で、「ホームページやマチコミメールの活用を更に進めて欲しい」、「行事予定の内容をより細かく：休校日、登校時間の変わる日、お弁当の有無の情報伝えて欲しい」という意見があった。設問5に対し、「子女が本校で成長したと思う」に肯定的評価を76%頂けたことは有難い。設問6学校が「働き方改革」に取り組んでいる事を知っている。は肯定評価49%であった。

・学習指導について、

生徒) 設問6「自分なりの課題や目的をもって日々の授業に臨んでいるか」の肯定的評価は40%であり、HRや授業等の中で、生徒に対して更なる意識づけが必要。また、1・2年生は定期考査の範囲の発表を早めてほしい旨のコメントが複数があった。

教員) 教員は各項目の数値で肯定的であるが、生徒から自由意見でさまざまな批判を受けていることを認識し、改善する心掛けが必要。生徒意見を総合すると「言動の課題」であったり、「対話的でなく生徒との信頼関係に課題」のあるコメントも散見される。一部の教員に対して「もっとわかりやすい授業」を求める意見もある。教員側の工夫改善が求められている。

・生活指導について

生徒) 制服の指導について細かく言う教員が、ラフな服装であることに対する疑問が多数書かれている。また、コロナ対応の換気で教室が寒いため、防寒着の着用について認めて欲しいという意見が複数あった。(この件については、令和2年度中に、一定程度規制緩和を実施済)

保護者) 生徒指導の場面で、事実関係の聴取における一部教員の対応に対する意見があった。具体的には「教員側の決めつけ」「切り捨てるような発言」「人格を否定するような発言」とある。このコメントについては看過できない内容であり、管理職は注意喚起を行う。スカートの長さにつき、永山高校女子の品格について指導を期待するコメントもあった。

・進路指導について

生徒) コメントで、本校の教育課程について大学受験に向けた改善を求める内容がある。

具体的には、大学受験に対応した講座の増、基礎なし理科の科目がより早く履修できるようにしてほしい等。

保護者) 質問項目に対しては概ね肯定的回答が多い。自由意見の中に、学校に対する要望がある。具体的には、3年生の推薦の調査書・推薦状が生徒に渡されるのが遅く困惑した。2年生(48期生)の大学受験について情報が少なくとても心配であること。「進学を希望する子供たちにもっと積極的に先生方からアプローチして頂きたい。就職する生徒が多いのかもしれないが、永山高校全体が進学について力を入れていないという風に思っています。」という意見もあった。

- ・特別活動について

行事については例年全校規模で行ってきた体育祭・文化祭が開催できず厳しい状況となったが、学年単位での球技大会等を実施していた。

生徒) 部活動関係で「部により先生方が生徒に対する対応や態度が違い(差別的で直すべき)」という意見がある。

- ・健康・安全について

生徒・保護者) とともに、校内清掃についてもっとやるべきという意見が複数見られた。

また、コロナで換気を行うため冬場に寒すぎるという意見も複数あり。

生徒) 設問18「相談する相手がいるか」に対する肯定回答は64%あった。

一方、1年生のある生徒は「障害のある生徒をいじめをしている人がいる。しっかり見て欲しい」と書いていた。いじめのスクリーニングを年3回のアンケートで行っているが、その中では明らかな「いじめ」を認定したケースは令和2年度にはなかった。いつでも「いじめ」が起きる可能性があること。今後も心配な場面を見過ごさぬよう、教職員が眼を光らせていく必要がある。

- ・保護者との連携について

保護者) 自由意見で、感謝やお褒めの言葉を多数頂いた。一方、保護者と教員のコミュニケーションについて、必要に応じた臨機の対応を求める意見。電話対応が無愛想であるという意見がある。校内で共有し、職員が認識することが改善に繋がると考える。

また、教員の中に暴言と思われる言動をする者がいると感じた保護者は、「生徒の自尊心を傷つけていること。心理的虐待の危惧」を表明している。

- ・その他

生徒) 設問23で1ヶ月平均何冊本を読んだかに対して、0冊(不読者)が54%であった。この側面について、読書活動を推進する機会や雰囲気醸成したい。

4 学校運営連絡協議会の成果と課題【学校の自己評価への反映】

(1) 学校運営連絡協議会を実施して得られた成果

- ・今年度は学校評価アンケートを大きく改訂したが、その結果、各方面からの有益な自由意見が増加した。課題点を、常に意識しつつ、各取組の上に反映し学校の向かうべき方

向を明確にし、学校改善に邁進して行く。

- ・地域住民の委員選出について、2021年度以降、5団地連絡会（5-21、5-29、5-30、5-34、メゾネット）から委員を選出する方向での提案を頂いた。より広域な近隣住民の視点を反映できる可能性があるため、次年度以降、この提案を受け入れ委員になる方を選出する方向とした。

（2）学校運営連絡協議会を実施して明らかとなった課題

- ・教職員の言動については、人権感覚・人権意識の脆弱さが根底にあると考える。この点について更に啓蒙し、安心・安全な落ち着いた学校を目指していく。

5 学校運営連絡協議会及び学校評価を活用した教育活動の改善事項【学校経営計画への反映】

（1）学校運営

- ・学校の方針をより一層わかりやすくし組織目標を明確にして、学校全体の力を集結して課題解決を目指す。また、その動きが保護者、地域住民に効果的に伝わるよう、広報の方法をさらに改善していく。HPの更新をこまめに行い、タイムリーに情報を発信する。印刷物の配布・回収を確実にするため、携帯メールサービスも継続して活用する。また、学校としての特色をより明確にして募集対策につなげる。

（2）学習指導

- ・家庭での学習時間が確保できるよう工夫し、家庭学習の習慣化と拡張を図る。
- ・本校生徒の学習理解度を分析、学カスタンダードを設定し、具体的な学習目標を設定し、校内で組織的・効果的な指導を行う。
- ・授業規律を守り、学力向上に向けた学習指導を推進する。
- ・朝学習を継続し、基礎学力の充実と学習の習慣化を進め、また、相互授業見学を通し授業力を向上させていく。英検・漢検の全員受験を継続し、生徒に目標を持たせる。

（3）特別活動

- ・部活動をより活性化させ、生徒の主体性を育む。
- ・部活動への加入率と定着率を上げ、何事にも挑戦できる自信をつけさせる。また現在の実績に満足するだけでなく、学校外でもさらに認められる実績を作る。

（4）生活指導

- ・頭髪指導と身だしなみ指導で構築した組織的な指導体制を継続する。常識やマナーの指導を全教育活動を通じて全教員で行い、ピアス装着禁止等身だしなみ指導を徹底する。
- ・登下校のマナーについて改善については、依然として地域からの苦情もある。継続した指導を行い、生徒の規範意識を醸成する。また、自転車での下校経路を指定し、徹底させる。

（5）進路指導

- ・進路多様校という自校の現在の状況を、大学受験を目指す生徒に対する指導のブレーキにしてはいけない。生徒や保護者の求めに対して真摯に向き合い、改善に向け具体的な対応を検討し実施して行く。
- ・進路情報を積極的に発信し、進路ガイダンス、面接指導等、生徒の進路意識を向上させる取組みを進路指導部を中心に学校として実施する体制を更に強固なものにする。

(6) 保護者との連携

- ・保護者会の拡充として、PTAによる校内研修会などを通し、保護者と教職員の連携を密にしていく。
- ・保護者へ学校情報が確実に伝わるよう、携帯メールサービス登録数を更に増やして行く。

6 「学校がよくなった」と考える協議委員の割合

(1) 協議委員人数 7名

(2) 「学校がよくなった」と答えた協議委員の人数

そう思う	多少 そう思う	どちらとも いえない	あまりそう 思わない	そう 思わない	わからない	無回答
4	1					2

7 職員会議及び企画調整会議への協議委員の参加実績及び成果

【実績】 職員会議 0回 延0人 企画調整会議 0回 延0人
協議委員に対する校内会議の公開については、未実施であり次年度以降の課題である。

8 その他

- ・保護者のアンケート回収率を更に高めるため、質問内容を含め検討の必要がある。
- ・評価精度の更なる向上のため、学校公開の機会を増やしていく。